

科目名	教育課程論			担当教員	田中 亨胤
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED3EFE109
期待される学修成果	基礎教養				
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	教育を担う教員は、専門職者である。主として学校教育カリキュラムの諸課題に関する学修を通して、専門的職務に必要な、○知識および技能、○論理的・科学的思考力や判断力および表現力に関する資質・能力、○教員として生涯にわたって向上心を持って学び続ける力、これらを身に付けていく方途の機会になることを期待する。 この上で、 ・教育課程の意義、編成方法、留意点がわかり、具体的理解を基にした説明ができる。 ・学校教育および関連する教育活動の位置づけや価値を理解し、教育課程編成について、その要点を述べることができる。 ・教育課程の見直しにかかわる評価の在り方や要点について説明できる。				
授業の概要	「カリキュラム」は、マクロおよびミクロの教育実践とは不可分な多重構造体である。表層としてのビジブルな構造体でもあり、深層としてのインビジブルな構造体でもある。15回の授業では、様々な切り口あるいは窓口から、教育実践および教育研究の蓄積された成果を踏まえて教育カリキュラムの追究を試みることとする。これによって、持続可能な教育実践への具体的取り組みにかかわる学修につなげていくこととする。(各回の授業項目を参照)				

授業計画	
第1回	○はじめに：オリエンテーション 第1回：学校教育の構造と機能：学校のイメージとカリキュラム（1－3）
第2回	第2回：カリキュラム関連のターム：教育課程・指導計画・授業案（2－1/2－3）
第3回	第3回：教育装置としてのカリキュラム・パラダイム（1－3/2－1）
第4回	第4回：教育課程における「告示としてのカリキュラム」：「学習指導要領」（1－1/1－2）
第5回	第5回：教育課程における「告示としてのカリキュラム」：「幼稚園教育要領」（1－1/1－2）
第6回	第6回：教育課程における「告示としてのカリキュラム」：「保育所保育指針」等（1－1/1－2）
第7回	第7回：教育課程編成のスタンダード：教科等の授業時数（2－1/2－2）
第8回	第8回：教育課程編成のスタンダード：カリキュラム・マネジメントとPDCA（3－1）
第9回	第9回：教育課程のスタンダード：異校種間接続カリキュラムの開発（2－2/2－3）
第10回	第10回：教育課程編成のスタンダード：学校外機関との接続カリキュラムの開発（1－3/2－2）
第11回	第11回：教育課程編成のスタンダード：教育・学習評価の媒体（3－2）
第12回	第12回：教育課程編成のスタンダード：教科書・教材等の教育活動媒体の利活用（3－1/3－3）
第13回	第13回：教授・学習過程としての授業展開：学びに向かう主体的学習心（3－1/3－2）
第14回	第14回：教育の質保障（保証）と教育課程（3－1/3－2）
第15回	第15回：カリキュラムの・カレント・トピックス（1－3/2－1/3－1） ○おわりに：授業内容のリフレクション

事前学修	2 時間	授業シラバスの項目について、事前に学修をしておくこと。
事後学修	2 時間	授業で提示した課題について、調べ学習をしておくこと。確認した内容について、各自のノートにまとめておくこと。
フィードバックの方法	提出した小レポートについて、次回の授業内にコメントを付して返却し、学習発展に供する。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
レポート		30%	論点整理を確認し、評価をする。
上記以外の試験・平常点評価		10%	授業への参加意識と姿勢
定期試験		60%	設問に対する取りまとめを確認し、評価をする。
補足事項	特に無し		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特に無し	-	-	-	-
参考資料	必要に応じて参考資料を紹介する。			

科目名	教育課程論			担当教員	玉置 崇	
単位	2単位	講義区分			ナンバリング	ED3EFE109
期待される学修成果	基礎教養 学校と社会					
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート					
実務経験	教諭（講師を含む）					
実務経験を生かした授業内容	学校での具体的な授業づくりについての指導・助言の経験を生かし、生きる力を育てるためのカリキュラムの編成とその実際・可能性について受講者とともに検討する。					
到達目標及びテーマ	・教育課程の意義、編成方法、その際の留意点がわかり、自分の言葉で話すことができる。 ・学習指導要領の変遷とそのときの背景について語ることができる。 ・様々な教育活動を位置づけ価値づけるための教育課程編成についてポイントを述べることができる。 ・教育課程を見直すための評価の在り方について論じることができる。 ・新学習指導要領についての知見ができる。					
授業の概要	教育課程（カリキュラム）の意義と編成方法について学ぶことを目的とする。児童・生徒の人格的発達を保障するという初等中等教育の課題が、学校教育の場面でどのようなかたちで計画され実践されているのかを具体的に検討していく。この講義では、教育課程について理論的・実践的・歴史的な観点において幅広くアプローチすることによって、現在・過去・未来の教育課程と学校での教育実践の関係について考えてみたい。					

授業計画	
第1回	＜教育課程・カリキュラム・教育内容＞ 教育課程、教科教育、教科外教育をめぐる基本的な定義を検討する。 資料「学習指導要領総則解説編」などをもとに、教育課程についてとらえておく。
第2回	＜教育課程に関する法律＞ 教育課程編成をする上での土台となっている法律を理解し考察する。 資料「学習指導要領総則解説編」をもとに、教育課程編成の手法などを調べておく。
第3回	＜教育課程の編成と学習指導要領＞ 指導計画と教育課程の関係について検討する。 年間授業時数の変遷と現在について考察する。 資料「学習指導要領総則解説編」をもとに、年間授業時数、授業週数の変遷をとらえておく。
第4回	＜学習指導要領の構造＞ 「総合的な学習の時間」が導入された経緯、変遷などをもとに学習指導要領の構造を考える 資料 NHK映像ドスルコスルでの優れた総合的な学習の時間
第5回	＜生徒指導と学習指導要領＞ 生徒指導から見た教育課程編成を考える。 資料 学習指導要領「生徒指導」、体罰と懲戒
第6回	＜進路指導とキャリア教育＞ 進路指導とキャリア教育の違いから教育課程編成を考える 資料 文部科学省発行「キャリア教育ってなんだ？」
第7回	＜学習指導要領と教育課程 1＞ 「主体的な学び」について知り、そのあり方を考える 資料 学習指導要領「主体的・対話的で深い学び」
第8回	＜学習指導要領と教育課程 2＞ 「対話的な学び」について知り、そのあり方を考える 資料 学習指導要領「主体的・対話的で深い学び」
第9回	＜これからの教育課程 1＞ 令和の日本型学校教育における「日本型」の意味することから考える。 資料 令和の日本型学校教育
第10回	＜これからの教育課程 2＞ 令和の日本型学校教育における「GIGAスクール構想」から考える。 資料 令和の日本型学校教育
第11回	＜校長の教育課程編成権 1＞ 教育課程編成における校長の裁量権を「よのなか科」の実践を通して考える。 資料 よのなか科「ハンバーガーショップの店長」

第12回	<校長の教育課程編成権 2> 教育課程編成で「いのち」の大切さの扱い方を考える。 資料 よのなか科「いのち」の授業
第13回	<校長の教育課程編成権 3> 京都堀川高等学校の奇跡から教育課程編成を考える。 資料 高等学校総合的な探究の時間
第14回	<社会に開かれた教育課程編成の在り方> 学校ホームページの価値と意義を考える。 資料 N H K 新任教頭の取組、教育行政の立場から考える学校ホームページ
第15回	<全体のまとめ> 新学習指導要領の動向を知り、今後を予想する。 新しい時代の教育課程のあり方について再考する。 振り返りの重要性から教育課程編成のあり方を考える。 資料 「まんがで知るデジタルの学び」

事前学修	2時間	初回に告知する各種資料の当該部分を精読し、疑問点などを明らかにして講義に臨むこと。
事後学修	2時間	各回終了時に提示される課題に取り組むこと。
フィードバックの方法	評価できる点、オリジナル性が高い点が学生に伝わるようにして授業での振り返りに簡単にコメントとしたり、アンダーラインを引いて返却する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	75%	授業での振り返りが的を射たものであるか
上記以外の試験・平常点評価	25%	意図的指名での発言、ペア、グループディスカッションへの積極性、全体への貢献度
定期試験	0%	
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
プリント配付	特になし	特になし	特になし	特になし
参考資料	文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』『中学校学習指導要領解説 総則編』 この資料は購入しても良いし、パソコンにダウンロードしてもよい。			

科目名	教育課程論			担当教員	龍崎 忠	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED3EFE109
期待される学修成果	基礎教養 学校と社会					
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート					
実務経験	教諭（講師を含む）					
実務経験を生かした授業内容	学校での具体的な授業づくりについての指導・助言の経験を生かし、生きる力を育てるためのカリキュラムの編成とその実際・可能性について受講者とともに検討する。					
到達目標及びテーマ	<到達目標> ・教育課程の意義、編成方法、その際の留意点がわかり、自分の言葉で説明できる。 ・様々な教育活動を位置づけ価値づけるための教育課程編成について要点を述べることができる。 ・教育課程を見直すための評価の在り方について説明することができる。 <テーマ> ・教育課程の編成の原理、方法とカリキュラム・マネジメント、教育評価の実際について学ぶ					
授業の概要	教育課程（カリキュラム）の意義と編成方法について学ぶことを目的とする。子どもたちの人格的発達を保障するという学校教育の課題が、学校教育の場面でどのようなかたちで計画され実践されているのかを具体的に検討していく。この講義では、教育課程について理論的・実践的・歴史的な観点において幅広くアプローチすることによって、現在・過去・未来の教育課程と学校での教育実践の関係について考えてみたい。					

授業計画	
第1回	カリキュラム・マネジメントのために(1)：教育課程、教科教育、教科外教育をめぐる基本的な定義を検討する
第2回	カリキュラム・マネジメントのために(2)：カリキュラムが編成される意味を考察する
第3回	カリキュラム・マネジメントのために(3)：指導計画と教育課程の関係について検討する
第4回	カリキュラム・マネジメントのために(4)：カリキュラム・マネジメントの重要性と必要性について理解する
第5回	教育課程の編成と学習指導要領(1)：学校教育の目的と目標について理解する
第6回	教育課程の編成と学習指導要領(2)：学習指導要領をめぐる諸法制について理解する
第7回	教育課程の編成と学習指導要領(3)：学習指導要領の基本的な構成について理解する
第8回	教育課程の編成と学習指導要領(4)：学習指導要領の改訂の歴史と社会的背景について検討する
第9回	「学力」とは何か(1)：学校教育がめざす学力形成とは何かについて検討する
第10回	「学力」とは何か(2)：求められる「生きる力」＝資質・能力の実際について理解する
第11回	「学力」とは何か(3)：学力低下論争・ゆとり教育について検討する
第12回	「学力」とは何か(4)：「世界標準の学力」について考察する
第13回	教育評価の意義と方法(1)：教育目標の設定とその評価の意義について検討する
第14回	教育評価の意義と方法(2)：観点別評価の実際と資質・能力の育成の実際について検討する
第15回	教育評価の意義と方法(3)：価値づくりとしての教育評価について検討する

事前学修	2時間	教科書の当該部分を読んでおき、うまく理解できないものをピックアップすること
事後学修	2時間	事前に理解できなかったものを再確認して、当該内容の理解を深めること
フィードバックの方法	リアクションペーパーについてはコメントを付して次回に返却する。内容に応じて全体でシェアする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価	70%	毎回テーマに係るワークを交える
レポート	30%	期末レポートを実施する

定期試験	0%	定期試験については実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領(H29告示) 解説 総則編	文部科学省	東洋館出版社	4491034613	なし
参考資料	文部科学省『小学校学習指導要領(H29告示)』『中学校学習指導要領(H29告示)(と解説の総則編)』『幼稚園教育要領(H29告示)(とその解説)』			